

TOTO

台所用シングルレバー混合栓

TKJ31U型

TKG31U型・TKF31U型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。取付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1

安全上の注意 (安全のために必ずお守りください。)

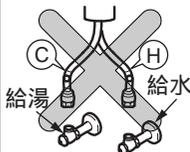
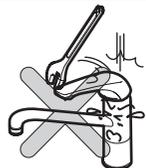
取付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。

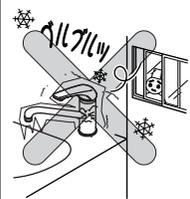
この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害又は物的損害が発生する可能性があることを示しています。

	してはいけない「禁止」内容です。
	分解しないでください。
	必ず実行していただく「強制」内容です。

 注意	
 禁止	湯水を逆に配管しないでください。 水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。 
	給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。 85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。 
	強い力や衝撃を与えないでください。 故障や水漏れの原因になります。 

 注意	
 分解禁止	修理技術者以外の方は、水栓本体内部を分解しないでください。 故障や水漏れの原因になります。 
 禁止	寒冷地用 水抜コックは水抜き以外の目的で開けないでください。 水抜コックをいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。  水抜コック
 必ず実行	寒冷地用 凍結が予想される場所でご使用になる場合は、「9 寒冷地用の水抜き方法」を参照の上、凍結予防を確実に行ってください。 部品が破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。 

2

仕様

給水・給湯圧力	使用必要水圧	0.05MPa (流動圧)
	最高水圧	0.75MPa (静水圧)
使用最高温度		85 以下
使用可能水質		水道水及び飲用可能な井戸水
使用環境温度	一般地用	1 ~ 40
	寒冷地用	- 20 ~ 40 (ただし、0 以下は水を抜いた状態)
用途		一般住宅台所用

3

取付け前に

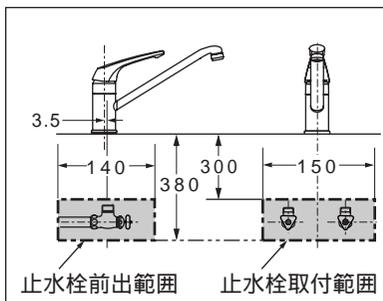
給水圧力が0.75MPaを越える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。快適に水栓をお使いいただくためには、0.2MPa程度の水圧をおすすめします。ウォーターハンマーやバルブ開閉音が低減します。

やけど防止や配管保護のため、給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。

誤操作などによるやけど防止のため、60 給湯をおすすめします。

給湯機からの給湯管は、抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

水勢調節及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ずご用意ください。右図に示す範囲内の止水栓位置にて、施工が可能です。

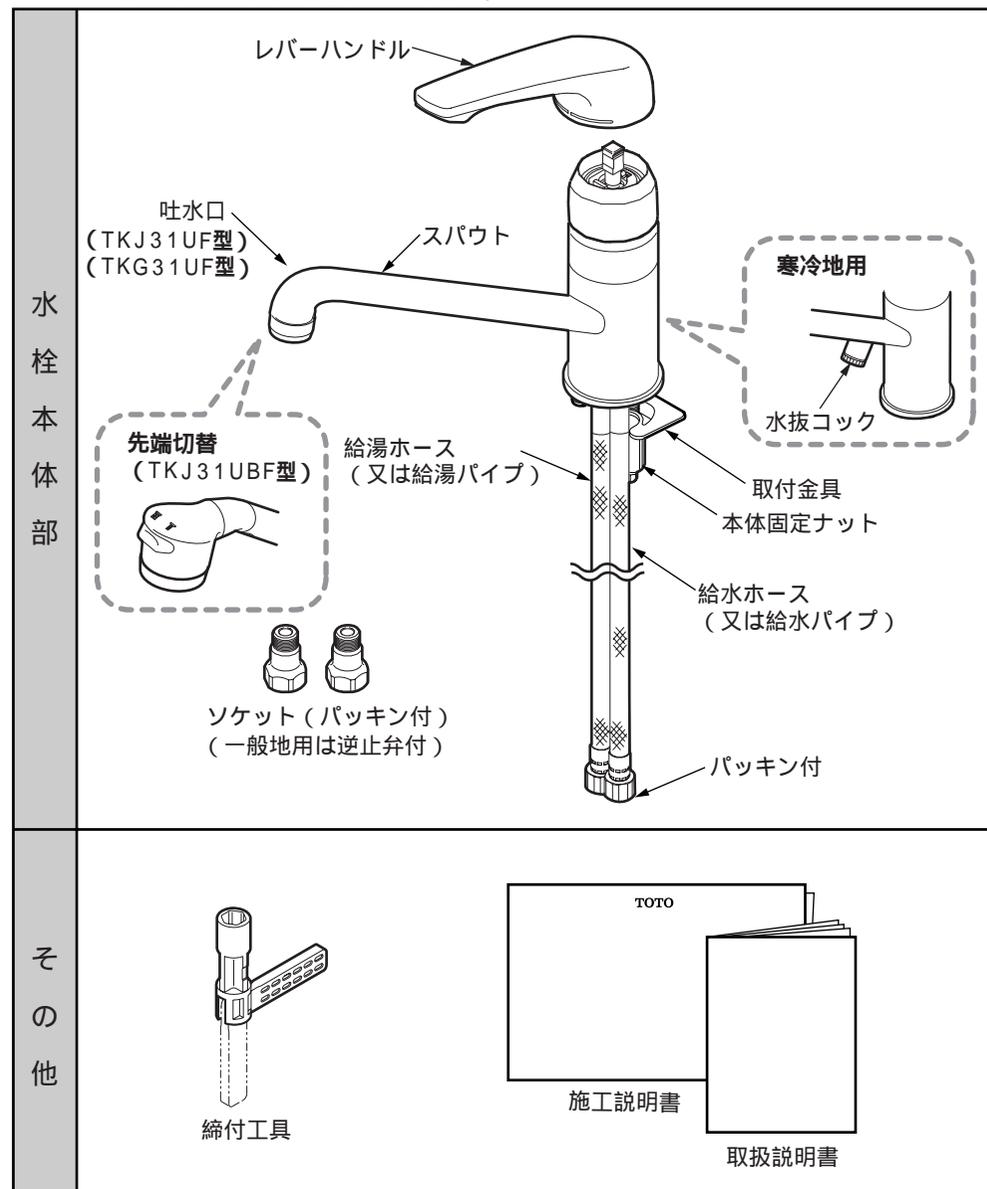


梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている場合がありますが、商品には問題ありません。

4

部品の確認

次の部品があることを確認してください。



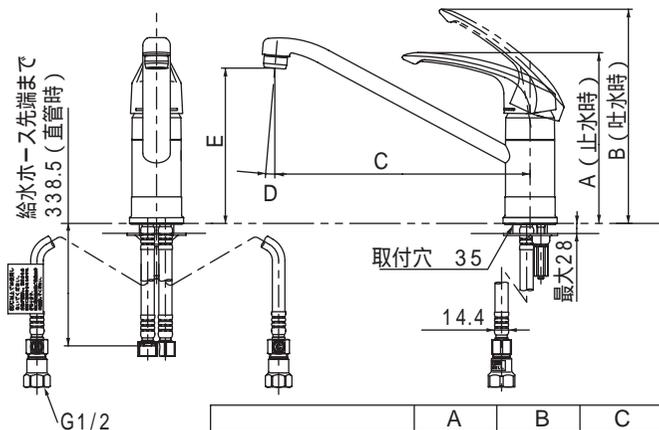
品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

5

完成図

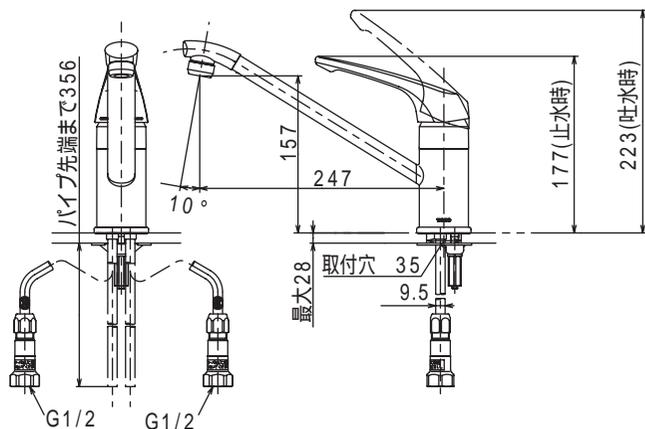
品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

フレキホースタイプ



	A	B	C	D	E
TKJ31UF型	177	223	247	10°	157
TKJ31UF3型	172	216	260	5°	157
TKJ31UBF型	177	223	278	5°	145
TKJ31UBF3型	172	216	278	5°	145
TKG31UF型	183	224	260	5°	157
TKF31UF型	177	210	260	5°	150

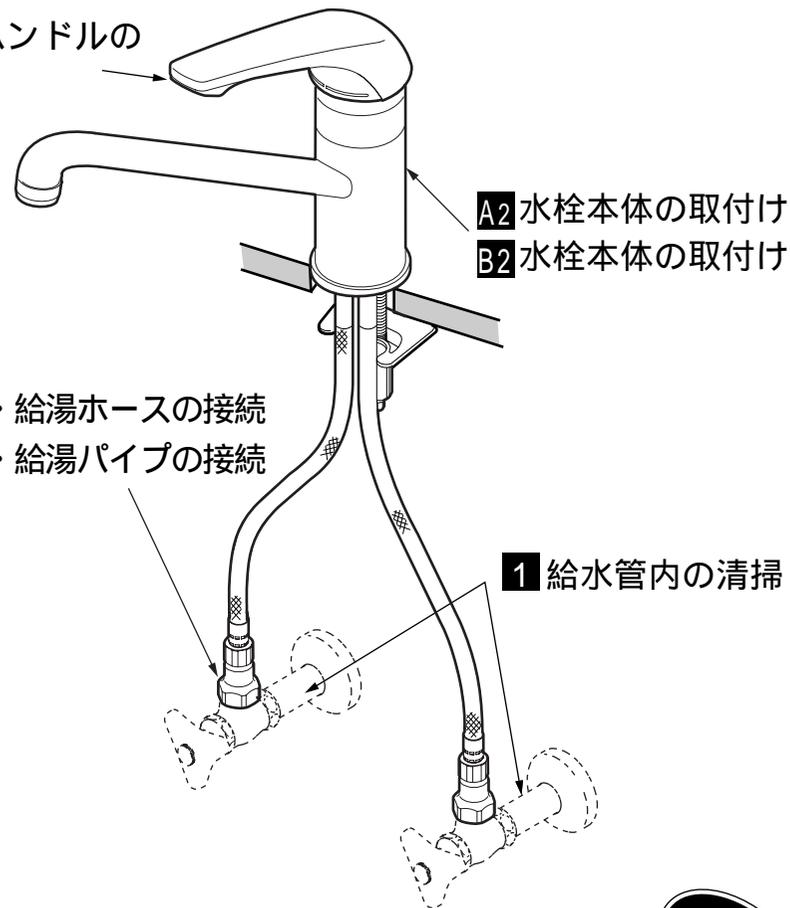
銅管タイプ



6-1

施工手順

4 レバーハンドルの取付け



1 給水管内の清掃

取り付ける前に **必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

以後の工程は給水管の種類により異なりますのでご注意ください。

給水管の種類	参照工程
A フレキホースタイプの場合	6-2 - A2 へお進みください
B 銅管タイプの場合	6-3 - B2 へお進みください

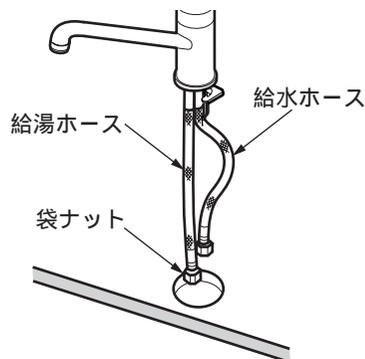
6-2 施工手順

A フレキホースタイプの場合

A2 水栓本体の取付け

右図のように袋ナットを上下にずらして給水・給湯ホースをカウンターの穴へ差し込む。

水栓本体が正面を向くようにする。



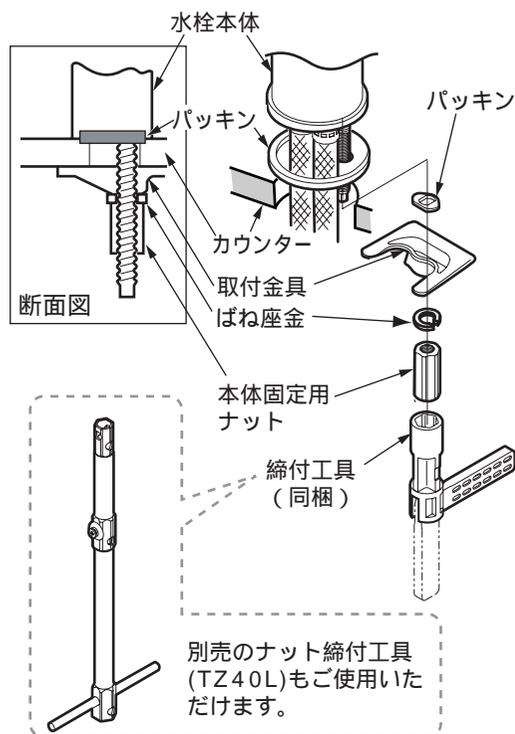
パッキン、取付金具、ばね座金、本体固定用ナットの順に差し込み、締付工具で固定する。

注意

本体固定用ナットを同梱の締付工具で確実に締め付けてください。

水栓本体下のパッキンの取付位置間違えないように接続してください。

水栓本体が取付穴の中心にくるように固定してください。



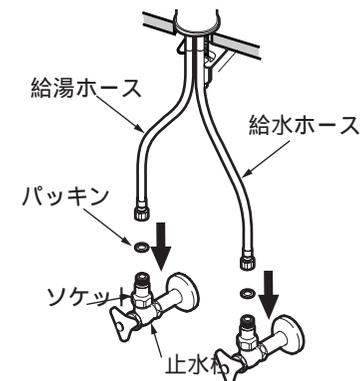
A3 給水・給湯ホースの接続

ソケットを止水栓に本固定する。

給水・給湯ホースをソケットに接続する。

注意

給水・給湯ホースの緩み防止のため、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。



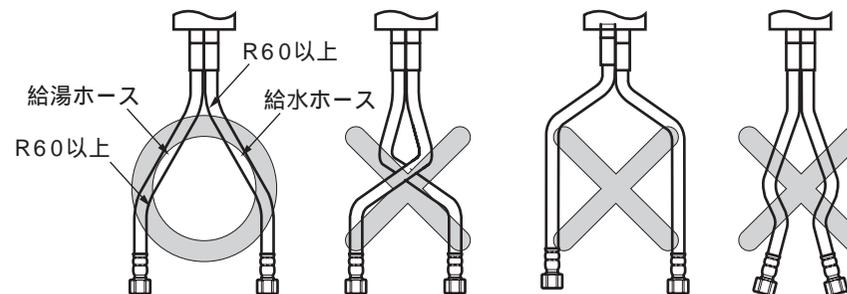
給水・給湯ホース施工上の注意点

ホースを必要以上の力で曲げて折らないように注意してください。万一折れた場合は、指でつまんでもとどおりにしてください。

ホースの折れに、ご注意ください。ホースの最小曲げ半径は60mmです。それよりも小さく曲げて使用しますと、ホースが折れ、折れた部分で早期破壊を生じる可能性があります。

ホースを無理に引っ張らないでください。ホースが折れたり、破損する可能性があります。

ホース同士の不要な接触は避けてください。外部補強層の摩擦による外傷でホース性能の劣化の可能性があります。



以後の作業は 6.4 - 4 へお進みください。

裏面へつづく

B 銅管タイプの場合

B2 水栓本体の取付け

水栓本体が正面を向くように仮固定する。
給水・給湯パイプを**止水栓の取出し位置**に合うように曲げ広げる。

注意

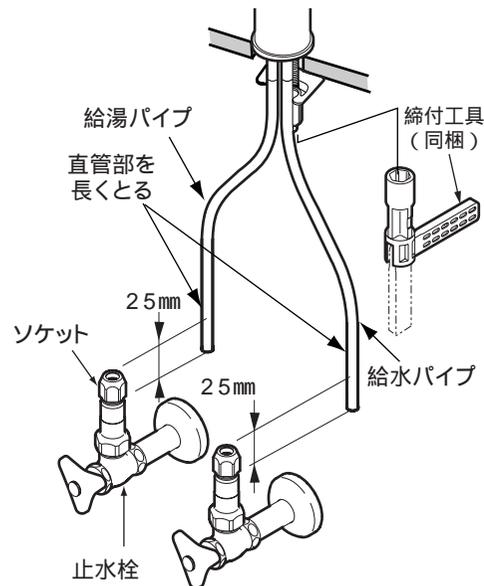
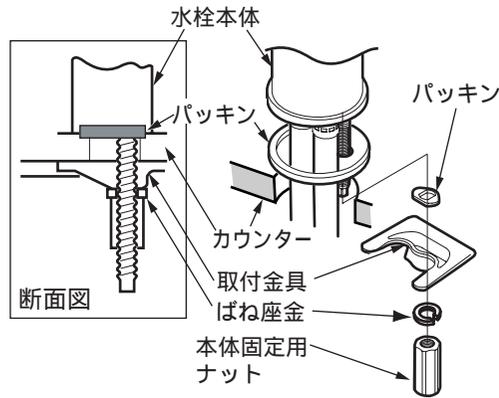
できるだけ直管部が長くなるようにしてください。
また、給水・給湯パイプが**つぶれないように注意**してください。

ソケットを止水栓に仮固定する。
給水・給湯パイプの必要長さを確認し、切断する。

注意

パイプの差込代は約25mm確保してください。

同梱の締付工具又は別売の締付専用工具(TZ40L)を利用して、本体固定用ナットを確実に締め付ける。



B3 給水・給湯パイプの接続

給水・給湯パイプに**袋ナット、テーパリング、パッキンガイド、パッキン**の順に入れて、ソケットを差し込む。

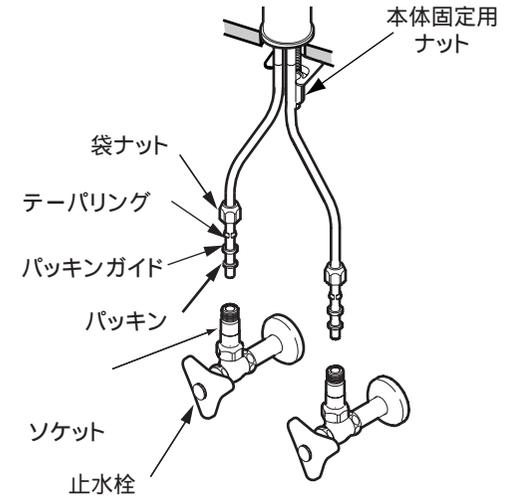
逆止弁又はソケットを止水栓にねじ込む。

パッキンをパッキンガイドに入れ、ソケットに押し付け、手締めで袋ナットを締め付ける。

更に工具で1回転以上締め付ける。

注意

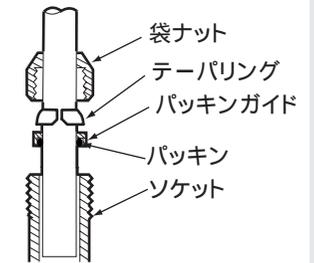
給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かないように確実に固定してください。



注意

袋ナット・テーパリング・パッキンガイド・パッキンの順番、向きを間違えないように接続してください。

水漏れのおそれがあります。



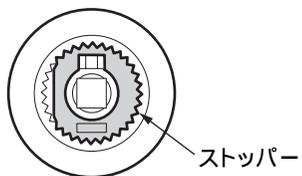
重要

↓
以後の作業は **6.4 - 4** へお進みください。

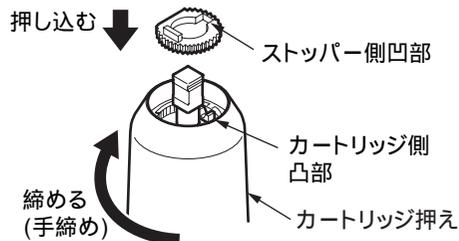
4 レバーハンドルの取付け

ストッパーの浮きや外れがないか確認する。

浮きや外れがある場合はカートリッジ側凸部とストッパー側凹部を合わせて押し込んでください。



浮きや外れがある場合



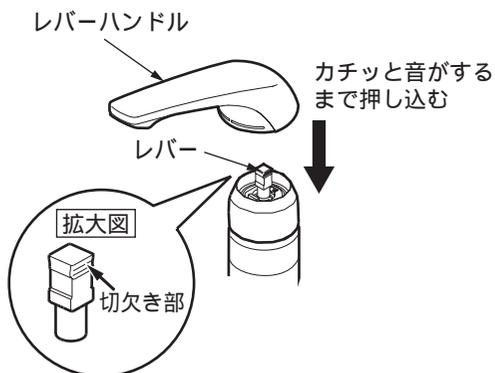
カートリッジ押えの歯とストッパーの歯が合わないときは、カートリッジ押えを **締め込む方向** にて歯を合わせるように調整してください。

レバーハンドルとレバーの方向に注意し、押し込む。

レバーハンドルが容易に抜けないことを確認する。

注意

レバーハンドルとレバーの切欠きとの方向に注意してください。レバーの切欠きは**両サイド**にあります。



使用上の注意

ご使用中に以下のような現象が発生することがありますが、**故障ではありません。**お客様に十分ご説明ください。

現象	説明
急に湯・水を止めると、ハンドル操作が重たく感じる。	急に水を止めると、「ドン」といった不快な音が発生することがあります。この商品は、急なハンドル操作をしたときに抵抗をもたせることで、この不快な現象を低減させる機構がはたらいっているため、故障ではありません。
使いはじめに比べて、しばらく使用すると、ハンドル操作が重く感じる。	ご使用により商品内部の部品がなじみ、安定したことによるもので、故障ではありません。

取付けが完了した後、次の項目を確認してください。

水出し確認

配管部の元栓を開け、
スパウトから水が出る
か確認してください。



流量及び吐水温度の確認

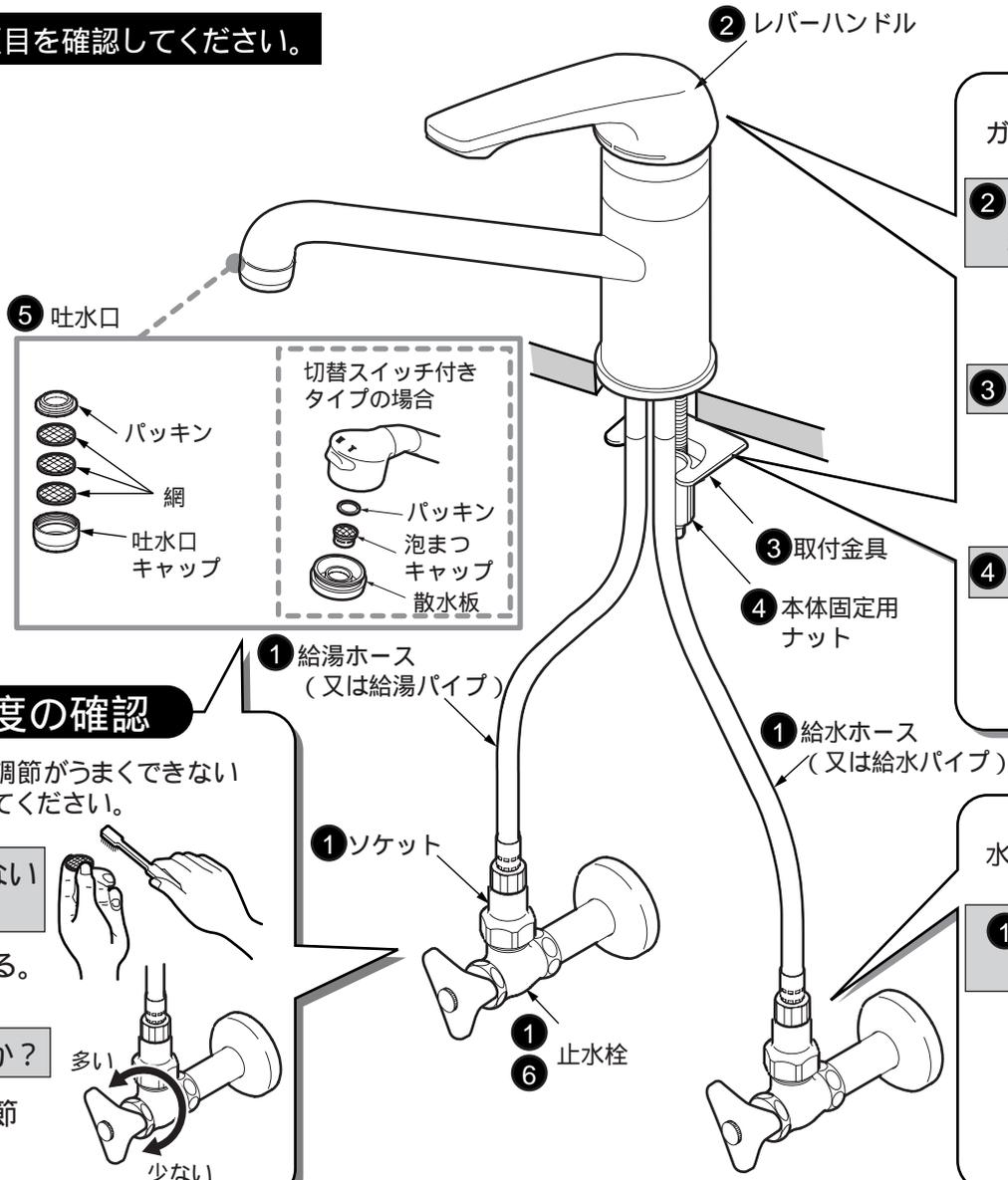
流量が少ないときや、温度調節がうまくできない
場合は、次の項目を確認してください。

5 吐水口のごみつまりはない
ですか？

↳ 吐水口の掃除をする。

6 止水栓は開いていますか？

↳ 止水栓で流量を調節
する。



ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

2 レバーハンドルはしっかり差し込まれてい
ますか？

↳ 6-4 - 4「レバーハンドルの取付け」
参照

3 取付金具の緩みはないですか？

↳ 6-2 - A2「水栓本体の取付け」参照

6-3 - B2「水栓本体の取付け」参照

4 本体固定用ナットは固定されていますか？

↳ 6-2 - A2「水栓本体の取付け」参照

6-3 - B2「水栓本体の取付け」参照

水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

1 ホース (又はパイプ) とソケット、止水栓と
ソケットはしっかり取り付けられていますか？

↳ 6-2 - A3「給水・給湯ホースの接続」
参照

6-3 - B3「給水・給湯パイプの接続」
参照

9

寒冷地用の水抜き方法

凍結が予想される時期に施工された場合は、水抜きを行っておいてください。
またお客様にも水抜き方法をご説明ください。

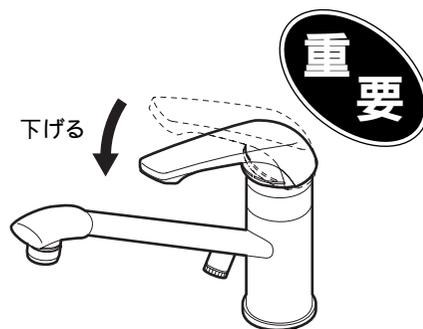
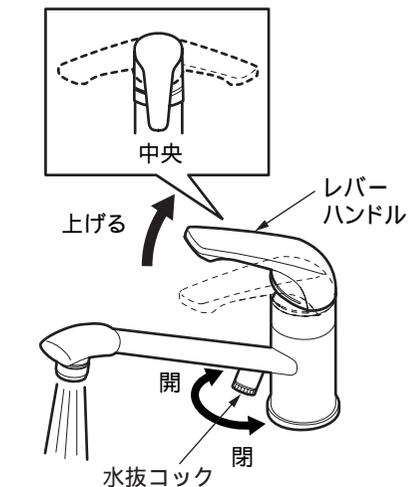
1. 配管部の元栓を閉め、水抜栓を開ける。

2. レバーハンドルを中央位置で上いっぱい上げ、水栓内の水を抜く。

3. 水抜コックを開ける。

4. 水抜き完了後は、必ず水抜コックを閉める。

5. 水抜き完了後は、必ずレバーハンドルを下へいっぱいにする。
(水が出ない状態)



同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

再生紙を使用しています。